

日本民家園だより

第52号

平成15年3月1日

編集・発行 川崎市立日本民家園

日本民家園開園35周年記念

夜間特別公開

「民家の夜と語らい」
かた

～沖縄芸能と囲炉裏の夕べ～

3月29日(土) 午後5時30分～午後7時30分



夜、民家をつつむ静寂の中で囲炉裏の火に照らされる
語らいと芸能を楽しんでみませんか。

日本民家園は平成14年4月1日に開園35周年を迎えました。

今年度は、春には船越の舞台で農村歌舞伎公演を実施したり、秋の民家園まつりを11月3日だけでなく前後の日曜日にも拡大して3回の民俗芸能公演を行うなど皆様に喜んでいただける企画を行ってきました。そして35周年の年度を締めくくる事業として夜間特別公開を行うことにしました。

囲炉裏の火——。夜なべ仕事——。民家園の夜間特別公開は、華やかなライトアップとは一味違って、静かな夜の民家とそこでの生活と語らいを再現します。特に今回は、ほの暗い民家を舞台にして、^{あで}艶やかな衣装と華麗な舞踊、そして三線の^{さんしん}音色がおりなす琉球舞踊をご堪能いただきます。

●「民家の夜と語らい～沖縄芸能と囲炉裏の夕べ～」●

料 金 400円 (中学生以下無料。なお今回は特別公開ですので、65歳以上の方も有料です。)
※混雑した場合は、入場制限をすることがありますのでご了承ください。

入 園 口 山下家前臨時入園口

公開民家 佐々木家 (国重文) 江向家 (国重文) 山田家 (県重文) 野原家 (県重文)
山下家 (県重文) 作田家 (国重文)

○沖縄芸能公演「琉球舞踊」

会場：佐々木家

出演：川崎沖縄芸能研究会

(神奈川県指定無形民俗文化財)

夕暮れの古民家を舞台に^{あで}艶やかな衣装と華麗な舞踊、そして三線の^{さんしん}音色。川崎と縁の深い沖縄芸能をお楽しみいただきます。

時間：午後6時15分～6時45分



琉球舞踊

○夜の囲炉裏と夜なべ仕事 会場：江向家・野原家

○移築工事記録映像公開 会場：作田家

古民家の解体から移築・復原までの記録映画上映と記録写真展示

時間：午後5時35分～6時5分「旧岩澤家住宅の復原」

午後6時50分～7時30分「旧原家住宅の復原」



○甘酒無料サービス 会場：作田家の庭 (先着200名に限らせていただきます)

・夜間特別公開中は山下家のそば屋も営業しています。(夜間公開中は、酒類は販売いたしません)

※天候等により一部プログラムが変更になる場合がありますのでご了承ください。

また、当日の一般開園は通常どおり4時30分で終了いたします。

関連
行事

◎写真展「民家の暮らし」—川崎市域と川崎市立日本民家園の記録から— (小池汪氏作品)

会場：山田家

日程：3月21日～30日 (3月29日は、夜間特別公開中も公開します。)

日本民家園収蔵資料紹介(8)

～ヒデバチ～

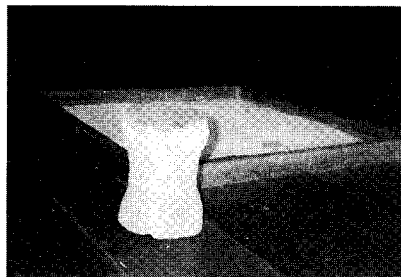
日本民家園には移築民家に関わる民具も収集している。この写真は、旧佐々木家（長野県南佐久郡八千穂村）の移築に伴い収集されたヒデバチという昔の灯火具である。すり鉢の形に石をほりくぼめた器に、簡単な足をつけて、その上部で松のヒデというものを燃やし、あかりとするのである。東日本には石製のものが多く、熱で割れないように、安山岩などの軟らかい石で作られている。西日本では鉄の皿に脚台を付けた形のものも多くみられる。

燃料となるヒデは関東地方の方言で、年を経た松の木のやにの多い部分を切って細かく裂いたものである。関西ではこの松のことをコエマツ、東北ではアブラマツなどさまざまな呼び名がある。一般の雑木は、燃やすと煙が多く、目にしみて、炉を囲む人々を悩ませたが、このヒデを使うと燃え付きがよく、火力も強くて室内を明るく照らし出し、夜の仕事をしやすくした。日本の村では、明治にいたるまでの長い間ヒデバチが使用されていた。

もっともこの火はすぐに小さく暗くなってしまうので、お客があつて酒盛りをするような時、または家の者が土間において夜なべをする時などは、だれかつきっきりで後の木をたしていかなければならなかった。ロウソクにくらべると大変な手数が必要とされたという。

参考文献 柳田国男『火の昔』筑摩書房

(財)日本のあかり博物館図録『あかり』1997



ヒデバチ（灯火具）
長野県南佐久郡八千穂村より収集

(学芸員 小坂広志)

日本民家園 平成15年度 春の催物

お茶席の会

4月29日(火・祝)・5月25日(日)

古民家を鑑賞しながら抹茶をお楽しみください。

11:00～ 佐々木家にて

先着 100名

一服 300円(和菓子付き)(入園料別)

協力：4/29 たちばな会・5/25 橘樹青年部



展示会と民俗芸能公演

にわとりと民俗芸能

5月17日(土)・18日(日)

鶏は古くから日本人の生活と深く関わってきました。

そして民俗芸能にも鶏とのつながりがみられます。

鶏の尾羽を飾った衣装で踊る熊本の久連子古代踊りと鶏の鳴き声を取り入れたといわれる沖縄の三線と踊りを鶏とともにご紹介します。

にわとり展示 熊本県 久連子鶏(熊本県指定天然記念物)

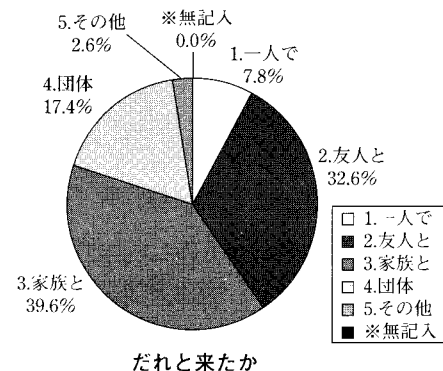
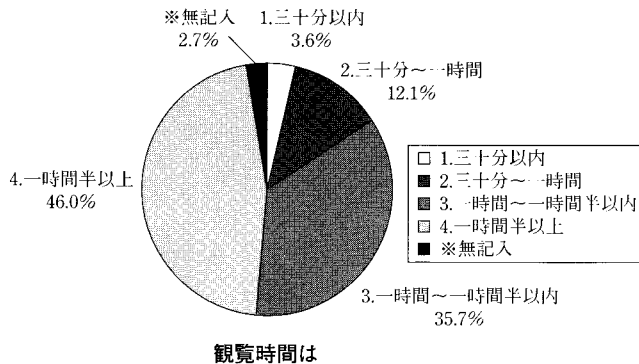
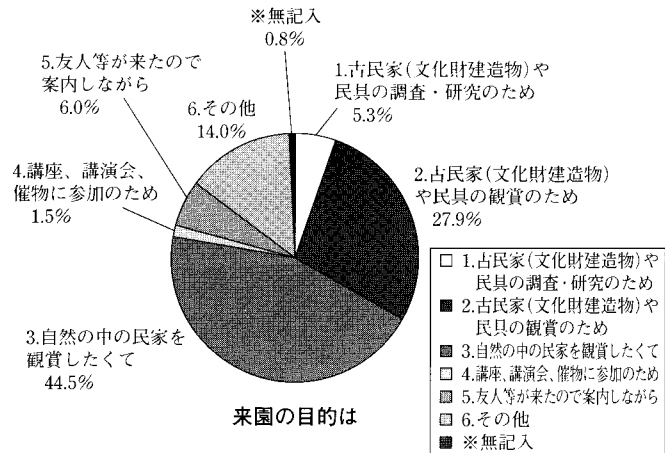
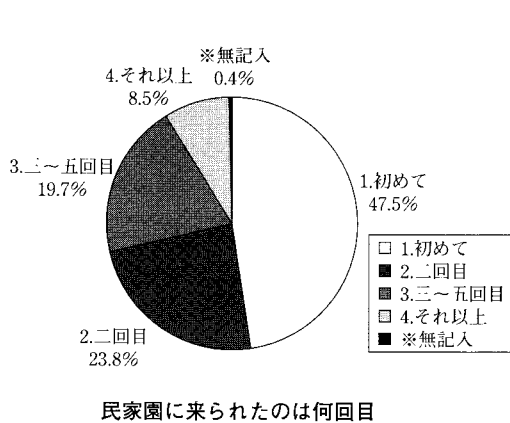
沖縄県 チャーン(沖縄県指定天然記念物)

民俗芸能公演 熊本県 久連子古代踊り(国指定無形民俗文化財)

沖縄県 三線と踊り

日本民家園来園者アンケートの結果

今、博物館では「評価」の問題が真剣に議論されています。とかくこれまでは財政的なコストの視点から評価が論じられてきましたが、これからは観覧者の満足感など心の問題にまで踏み込んだ評価をしよう、というものです。その最も基礎的な調査は、来園者の声をアンケートすることです。そこで日本民家園としては、平成14年11月22日(金)・23日(土・祝日)に、来園者の御協力を得て調査を実施しました。その結果の一部を円グラフにしました。



4つのグラフから読めることを要約してみましょう。まず、日本民家園に初めて来たという人は半数で、リピーターが半数でした。一人で来る人は少なく、家族・友人などを連れ添い、自然の中の民家を鑑賞しながら、心のリフレッシュを求めにきていることが分かりました。園内を観覧した印象は、非常によかった、と評価頂き、その結果を反映したものの、観覧には1時間30分以上をかけている人が最多でありました。また、グラフには示しませんでした。来園者の約4分の1が川崎市民で、東京都内からの人が最多でありました。交通の利便性なども反映しているのでしょう。これらの結果を踏まえてこれからどのように施設運営をしていくべきか、それは私たちに出された大きな宿題であります。

調査に御協力頂きました皆様に厚く御礼を申し上げます。(日本民家園長 村田文夫)